



## 「夏の感動を秋の学びへ」

〈幽霊の正体見たり〉

夏の科学館には、さまざまな不思議が持ち込まれます。「これ、なんていう石ですか?」「海で拾ったのですが、化石でしょうか?」「〇日の夜、空にヘンな光が見えただけけど…」

お答えしながら思うのは、質問してくださった方にとって謎の「答え」は、新しい世界への扉なのかもしれない、ということ。例えば「〇日の夜に空に見えたヘンな光」の正体が「国際宇宙ステーション」だったとしても、その答に「なあんだ」と納得してしまわなければ、「それ何だっけ?」という新たな謎を手に入れたことになります。

そこで一歩踏み込んで、「実は今、日本人宇宙飛行士の星出さんが長期滞在中」「医療や技術開発に関する実験が行われている宇宙実験施設」などの知識を得れば、今度は「〇月〇日夜〇時ごろ、蒲郡からも国際宇宙ステーションが見えるらしい。たまには夜空を見上げてみようかな」となり、いつの間にか天体観測という新しい趣味を手に入れているかも…?」

〈枯れ尾花も知の宝庫〉

皆さんはこの夏、どんな驚きや感動に出会ったでしょうか。夏が過ぎれば、やがて文化の秋、学問の秋がやってきます。夏に出会った不思議や感動が、ぜひ新しい世界、新しい知と学びの礎となりますように。

9月12日は「宇宙の日」。今年も9月末から愛知県内全域で「あいちサイエンスフェスティバル」が始まります。生命の海科学館のナンタン隕石にふれて、宇宙の「匂い」を感じてみませんか?



ナンタン隕石

# 数字で見る がまごおり

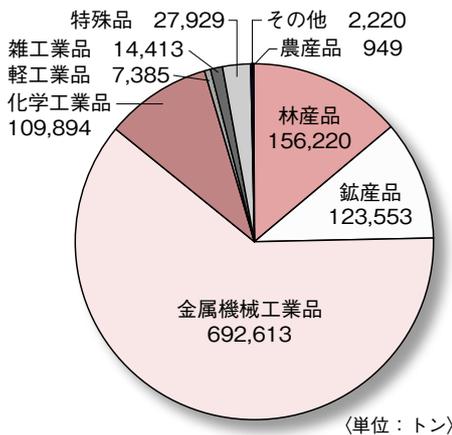
～重要港湾・三河港 蒲郡地区～

企画広報課 ☎66・1162

蒲郡港は1635年に犬飼(現在の蒲郡港)、大浜、鷲塚、平坂、御馬の三河五港の一つとして開かれ、明治・大正時代は、木材、石材、石灰など物流の輸送拠点として発展してきました。

昭和37年5月に西浦、蒲郡、豊橋、田原の四港を統合し三河港となり、昭和39年4月に重要港湾に昇格しました。

三河港は、昭和50年代半ば以降、国内自動車の輸出が始まり、平成に入ると外国自動車の輸入が活発化しました。今では、ワールドクラスの国際自動車港湾で、平成23年輸入自動車金額・台数ともに19年連続日本一、また輸出自動車金額・台数とも日本第3位です。蒲郡地区においてもその一役を担っています。



平成23年度品目別取扱貨物量  
出典: 平成23年三河港統計年報速報値  
(愛知県三河港務所)

☆蒲郡地区の取扱いい品  
取扱量は、金属機械工業品(完成自動車・鋼材)、林産品(原木)、鉄産品(砂利・砂)の順となっています。

なお、蒲郡地区の原木(メランチ類)輸入量は、全国の約23%を取扱っています。

平成23年輸出入自動車の輸出入港別順位(金額・台数)

輸 出					
順位	港 名	金 額	順位	台 数	
1	名古屋	2,293,658	1	1,349,792	
2	横浜	1,295,022	2	707,640	
3	三 河	1,079,009	3	640,136	
全国計		8,204,721			

輸 入					
順位	港 名	金 額	順位	台 数	
1	三 河	314,257	1	131,435	
2	千葉	163,657	2	53,430	
3	日立	119,009	4	25,725	
全国計		735,175			

(資料提供: 豊橋税関支署/単位: 百万円・台)